

# 図書案内

2023年 6月号

## 雨

日に日に暑さと梅雨が近づくのを感じます。

今月は、雨にまつわる本を取り上げました。降り注いだ雨は河川に集まり、海に流れます。海が温められると水蒸気になって再び雨になります。姿を変えて循環していると考えると、雨についてまた違った見方ができるかもしれません。雨が続いて外で活動しにくい季節ですが、そんな時には室内の図書館に立ち寄って

みてはどうでしょうか。

### 『風と光と水のことば』

倉嶋厚／文 細川剛／写真



「梅雨」、「虹」など日常生活で何となく使われる季節の言葉。古くから、日本のみならず世界中に存在していて社会と深く結びつきました。季節の移り変わりには、それぞれの美しさや趣があります。普段目にする水もまた、形を変えて様々なことばで親しまれる存在です。日々の活動から離れて、憩いや癒しをもらうのにおすすめの本です。

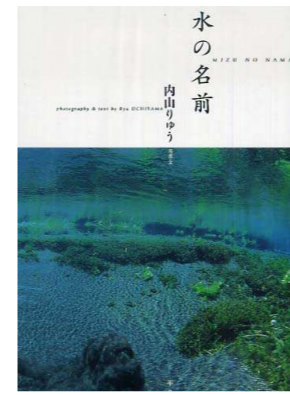
私たちは、海の底に住む深海魚のように、「大気（地球を取り巻く空気）の海」の底で暮らしています。

### 悪魔になった砂漠の国の雨の神

砂漠の豊穡神「バアル」。彼の壮大な人生、いや「神」生をご存じでしょうか？彼は『ウガリット神話』（紀元前 1250 年頃）最高神の息子として登場します。彼は乾燥地域の慈雨の神であるため影響はとて大きく、シリアなど近東の人々に広く信仰されていました。それは北イスラエル王国のキリスト教信仰を揺るがすほどでした。その為、彼は『旧約聖書』で「主なる神」を忘れさせる邪神として登場します。それだけではなく『悪魔の偽王国』においては悪魔の中で序列一番の大なる王とされ、『地獄の辞典』においては地獄の大侯爵とされました。近年では蠅の王「ベルゼブブ」（Beelzebub）として様々な作品に登場し、悪魔大王「サタン」に並ぶ高位の悪魔として有名になってしまいました。また『エジプト神話』においては似た属性を持つ「セト」に吸収されてしまう事も多くあります。波乱万丈な神生を送っている彼ですが、姿は変われども人々に畏怖される存在として今でも知られています。

参考 旧約聖書・列王記 17：8-16 など

### 『水の名前』／内山りゅう



私たちの祖先は水に多くの名前をつけてきました。この本には季節ごとに分けて、美しい写真とともに様々な水の名前が紹介されています。趣向を凝らした写真や様々な雨に関する知識を知って、あなたは日本の水、自然の魅力に必ず気づくことでしょう。雨の多いこの季節、この本を読んで水の様々な形に感動を覚えてみましょう。

われわれ日本人は、古くから水のある風景を美しい言葉で表してきた。

### 『小説 天気の子』／新海誠



小説版『天気の子』は、新海誠監督の映画作品の小説版である感動的な物語です。主人公の少年・帆高と謎めいた少女・陽菜が織り成す青春と奇跡の物語が描かれます。映画では描ききれなかったキャラクターの内面や心情、細かなエピソードが豊富に綴られ、読者の想像力を刺激します。また、新海誠ならではの繊細な描写や独特の世界観が、読者を深い感動と共感へと誘います。『天気の子』の小説版は、映画とは異なる魅力と深みを持ち、物語をより一層楽しむことができます。

東京の空の上で僕たちは、世界の形を決定的に変えてしまったのだ。

### 『デス・ストランディング』

野島一人／著、小島秀夫／原作



『メタルギアソリッド』シリーズなどを制作した小島が手掛けた『DEATH STRANDING』を完全ノベライズ。孤高のサムが雨によって分断されたアメリカを横断し人々から「伝説の配達人」と呼ばれるまでの物語。人と人の繋がり一strand一、奥深く美しい世界観に考察も捗る。読了時には普通の運送サービスに一層の感動を覚えること間違いなし。豪華俳優陣が演じる原作をプレイするとさらに楽しめる。少しでも興味がわいたら手に取ってみることを強くお勧めする。—あなたを“ビーチ”で待ってる—。

アメリカという国があって、誰もがどこまでも、自由に行けた。お前のような“運び屋”はいなかった。